

2015年6月6日

東南アジア学会会員のみなさまへ

世界史教科書東南アジア関係用語リスト案へのご意見をお願いします

東南アジア史用語集検討会

中村薫（教育・社会連携担当理事）、青山 亨、深見純生、桃木至朗、八尾隆生

用語リストの必要性

昨年2014年6月の第91回研究大会において、私たち東南アジア史用語集検討会は、大学教員と高校教員双方の報告者からなる「高校世界史における東南アジア関係用語の厳選」というパネル報告を開催しました。その中で、高校教員の側からは、東南アジアについて教えることの難しさ、生徒にとってのなじみのなさが紹介されました。

高校における歴史教育のあり方が大きく変わろうとしている今、このまま高校生のなかに東南アジアに対する関心が育たない状況が続くようであれば、将来の東南アジア研究を担う若い世代の層が薄くなってしまふ懸念があります。この課題を乗り越えるためには、高校教員が「教えられる」、生徒が「分かる」東南アジア史の姿を示す必要があるでしょう。そのための最初のステップがここで提示する、東南アジア史を理解するための厳選された用語リスト案です。

用語リスト案の作成

具体的には、高等学校歴史教育研究会によって公表されている世界史重要用語案2000語から抜き出した東南アジア関係の用語や、桃木会員が作成した用語リストをもとにして、高校生を対象に、「基礎用語：市民的教養として最低限知ってもらいたいレベルの用語」、「標準用語：大学進学予定者には必ず知っておいてもらいたいレベルの用語」、「発展用語：標準レベルを超えて知っていることが望まれるレベルの用語」の3つのレベルに階層化した用語リストの案を作成しました。

その際、既存の世界史用語集では採られていない地理的用語や交易品をかなり取り入れ、不要と思われる用語を思い切って削減し、明らかな誤りを訂正して、不適切と思われる用語表記の適正化を図りました。

当初の予定では、用語全体の上限を300語と見込んでいましたが、今回の用語リスト案では、基礎レベル76語、標準レベル100語、発展レベル152語、合計328語となりました。基礎レベルは世界史A、標準レベル(+基礎レベル)は世界史Bにほぼ対応しています。また、基礎レベル76語+標準レベル100語=176語は、世界史B用語全体を2000語に減らす提案

に対応するものです。現在の世界史用語集の東南アジア関連用語は約 300 語なので、半減を目指して整理したことになります。

また、用語は、①自然と社会、②1500 年以前、③1500 年以降、④1800 年以降、⑤1945 年以降、の 5 つの区分に分けてあります。これは、本来作業のための便宜的な区分ですが、最終版に残す可能性もあります。

用語リスト案へのご意見のお願い

東南アジア史用語集検討会では、こうして作成し、先日の第 93 回研究大会のパネル報告で提示し説明したリストを学会ウェブサイトで公開し、広く会員の意見を求めます。また、会員に限らずこの問題に関心のある方々のご意見を歓迎いたします。

いただいたご意見は検討会で検討させていただき、今年冬季の第 94 回研究大会で修正版を提示します。さらに、確定した用語リストをもとに、来年にはこれらの用語の背景と内容を解説する用語集を作成する予定です。

別掲の用語リスト案をご覧のうえ、専用のアドレス sea-glossary@jsseas.org までご意見をお送りくださいますよう、お願い申し上げます。作業の都合上、8 月 30 日を締め切りといたします。ご意見の内容・形式は自由ですが、例として以下のようなパターンを想定しています。いずれの場合も、どの用語についてのご意見かを示し、理由を簡潔に示していただければ幸いです。

1. 用語の選定そのものに対するご意見
 - ・ リスト案にのっている用語は不要である。
 - ・ リスト案にのっていない用語で載せるべきものがある。
2. 用語の表記・表現に対するご意見
 - ・ リスト案にのっている用語は別の表現に変えた方が適当である。
 - ・ リスト案にのっている用語の表記は別の表記に変えた方が適当である。
3. 用語のレベル・区分に関するご意見
 - ・ リスト案にのっている用語のレベルは別のレベルに変えた方が適当である。
 - ・ リスト案にのっている用語の区分は別の区分に変えた方が適当である。
4. その他、用語集全般に関するご意見

(この文書の原本、および用語リスト案は <http://www.jsseas.org/glossary/> に掲載されています。)